

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272100502		
法人名	株式会社ヘルスケアナラシノ		
事業所名	グループホーム津田沼		
所在地	千葉県習志野市藤崎4-10-8		
自己評価作成日	平成22年3月1日	評価結果市町村受理日	平成22年5月18日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成22年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は閑静な住宅街にあり、周辺には四季折々の草花が楽しめる場所が多く、散歩の際などにはアクセントになっている。また、近所には小学校や幼稚園などもあり行事などに参加させて頂くこともある。居室のベランダから見下ろせる広い芝生の庭があり、家庭菜園のスペースでは野菜作りに取り組むこともできる。建物は木目調を基調として、落ち着いた明るく温かみのある雰囲気となっている。グループホームは左右対面型の2ユニットで2階に設けられており、1階に併設されたデイサービスに気軽に参加することができる。このような大変恵まれた環境の他、職員の年齢層は厚く、その良さを活かしたバランスの良いきめ細やかな支援が、事業所の特徴である。利用者が地域の中で、その人らしく生き生きと暮らせるよう、職員一同ケアの実践に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はJRと京成津田沼駅に近い、緑が多い住宅街にある。2階建ての1階にデイサービス、2階に2ユニットのグループホームが東西対象に配置されている。デイサービスとグループホームは相互に交流する等、併設の効用を活かしている。「お元気で明るく楽しく心豊かに過ごしましょう」と分かりやすい文言で理念を謳っており、職員はケアの中で実践に努めている。運営にあたる幹部職員に女性が多い施設らしく、細部に細やかな気配りが伺える。また、ホーム主催の納涼祭には170名ほどの地域住民が参加した実績があるなど、地域との連携にも力を入れている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価(東ユニット)および外部評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で、入居者が自分らしく暮らしているように支援するため、理念を持ち方針を立ててサービスをしている。	「元気で明るく楽しく心豊かに」と謳う理念は、職員全員がいつも心がけるべき介護の基本として、朝のミーティング等で確認し合っている。介護計画づくりや見直しに際しても、理念が実践に十分活かされているか、確認を怠らないようにしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩などの外出の際は、近所の方に気軽に声をかけたり、利用者との買い物はできるだけ地域の店を利用して、交流が持てるようにしている。	地域の行事やゴミ拾いなどの活動に、職員と可能な入居者が積極的に加わっている。一方、ホームが行う納涼祭には昨年、地域の人たちが170人くらい集まり、子どものいる家族の参加も年々増えている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に於ける行事への参加を通じ事業所及び入所者に対する理解をして頂く。又事業所が実施するイベントへのお誘いを積極的に行い、地域に認知症への理解を深めていく		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、現状で特に課題と思われる事柄について検討したり幅広い意見を募ることで、問題解決や次なる目標を見出すことに繋がっている。	地域や行政から多様な人たちが参加し、昨年は消防署の代表も加わった。隔月に実施し、活動報告のほか介護現場を身近に見てもらったり、ビデオによる勉強会なども催して、会議の活発化とホームへの理解・協力体制づくりに努めている。	今年度は警察からの参加も働きかけ、また認知症ケアのボランティア活用を積極的に進める計画もあるという。運営推進会議をテコにして、地域・行政との連携がもっと深められるよう期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護サービス連絡会への参加や介護相談員の来訪に於いて気付いた事をアドバイスして頂きサービスの向上に努めている。	市主催の「介護サービス向上連絡会」に参加し、行政や同業者との交流をしている。介護相談員は隔月に来所し、入居者・家族と行政とのパイプ役を務めているが、事業所側からも問題があれば相談員を通じて状況を行政に伝えてもらうなどの協力関係を維持している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について正しく理解し、現状では行わないことを徹底しているが、今後も様々なケースへの正しい対応ができるよう、更に認識を深める必要がある。	「身体拘束ゼロ」を掲げている。マニュアルや事例集で研修を行う一方、事故予防を口実にした拘束も許されるべきではないとして、見守りに徹している。	

グループホーム津田沼 自己評価(東ユニット)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に研修に参加し、受講報告により職員全体の意識の向上に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の資料を職員に配布するなどして、理解を深めるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時には訪問し在宅での様子も把握して、施設での安定した生活に反映されるように努めている。また、入所前に十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な家族会の実施や面会時の声かけなどで、積極的に家族の意見の汲み上げに努めている。	年2回の家族会は家族と職員が意見・希望を述べ合う場になっているが、日常的にも家族面会時に声をかけて意見を聞くようにしている。ホームだよりや随時のたよりで様子を知らせるとともに、出された意見は出来るだけ運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも職員が自由に発言できる雰囲気づくりを心がけており、運営に意見を反映させている。	管理者は日々の申し送り時やホーム会議のほか、ふだんから個別面談の機会を設け、職員との意思疎通に努めている。昨年は退職者や業務の変更などで職場が落ち着かない時期もあったが、現在は職員からの意見も活発になっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は管理者や職員の努力や実績、勤務状況などを常に把握するように心がけており、各自が向上心を持って働けるような環境づくりに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規職員の採用に対しては介護に対する姿勢を見極めやる気を引き出せる様に働きかける。又研修によってレベルを上げる様に支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス向上連絡会への参加により他事業所の職員との交流を図り情報の交換及び質の向上にむける。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまで、困っていることや求めていることなどを、必ず本人から直接聴き受け止めるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に時間をとって、家族の意向を聴くようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、ひとまず在宅において必要な介護サービスが活用できるように支援するなど、他のサービスの利用も視野に入れた対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得られた個人情報をその人らしい暮らし方や力の発揮に活かし、共に支えあう関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を中心に、家族との情報の共有を心がけ、常に共に支えあう関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人との繋がりを保てるように、電話や手紙などの通信支援を行ったり、家族や知人などの訪問の際には、居心地の良い雰囲気作りを努めている。	ホームの公衆電話は入居者が家族や知人との通話によく利用している。手紙を出したい人に職員が代筆するほか、近隣の顔見知りの家を訪ねたい、墓参りや県人会に行きたい、など様々な声があり、ホームではできるだけ応えるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の良い関係づくりや、それぞれの力・個性を活かせるように配慮し、必要に応じて声かけを行い支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、継続して関係が保てるように、その後の様子を尋ねたり相談を受けた際は誠意を持って対応している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者それぞれに合わせて、コミュニケーションを図り気持ちを受け止めて、希望を暮らしや支援に活かすようにしている。	声かけ・話しかけを忘れないようにしている。希望が表出できない入居者には、こちらの声かけにどう反応するか、身振りや表情、目の輝きに注意して思いやることに努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者や家族からコミュニケーションをとり、細やかに情報収集を行い、入居者の全体像を把握し、ケアに活かしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に本人・家族・職員間で情報を共有するようにして、入居者一人ひとりの現状を総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・必要な関係者などと話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映させて、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は入居者一人ひとりの状況や家族の意向を基本にしながら、日々の申し送りや月ごとのスタッフ会議での現場の意見も加え作成している。定期的には3ヶ月に1度、状況の変化があれば対応して必要な見直しをしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、健康状態や暮らしの様子、ケアの情報の共有や介護の実践、計画の見直しに活かしている。		

グループホーム津田沼 自己評価(東ユニット)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望によりデイサービスでの交流を楽しめるような機会を持つ。また、本人の意向に合う様な支援やサービスを心掛けている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心で安全な暮らしができる様地域の資源を把握し利用できる様に支援する。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医に診て頂きたいとの要望に応じ通院介助を実施することもあり本人や家族の意向を大切にしている。	入居後の受診をホームの協力医にするか、従前のかかりつけ医にするかは入居者の希望に沿っている。協力医は月1回往診し、年1回は胸部撮影を含む定期健診をしている。かかりつけ医への通院介助は家族の協力を得ている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師により、入居者の状況を十分把握し、医療を受けることに関して適切な助言が24時間可能な体制である。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は見舞うなど病院との連携を密にして、早期退院に向けた話し合いをしている。退院時の指導などには職員が立ち会っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族等に「意志の確認書」等で入居時や必要時に意向を確認し、医師の助言も得ながら方針を決め、全員で共有して支援している。	終末期は、基本的には本人が望む場所で、との指針を設けている。しかし、病状の重度化に伴って看取りの医療・看護、併せて家族の協力が欠かせない。そのことを踏まえた本人・家族の意思確認を入居時から何度も重ねている。職員のターミナルケアに関する研修も不可欠としている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えてのマニュアルを作成し、職員の周知徹底に努めているが、今後も継続的に知識・技術の習得に努めていく必要がある。		

グループホーム津田沼 自己評価(東ユニット)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署からの指導を受けながら年2回の防災訓練を行い、災害時の避難方法について確認している。各居室に救護区分を表示している。	救助の際、歩行レベルが外部の人に分かるような目印を居室のドアの上に掲示している。夜勤時は1人が通報、1人が避難誘導と役割分担をしている。地域にしっかり根付いたホームなので、いざという時も協力を得られると思われるが、体制が確立すると、なお良いと思われる。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いや要望を常に大切にし、プライバシーやプライドを損ねない言葉かけや対応に配慮している。	どんな言葉や態度がその人を傷つけるのか、一人ひとりの利用者について把握するようにしており、対応に配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望や嗜好・関心を見極め、それをもとに本人が選びやすい場面づくりをし、自分で納得しながら暮らせるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の入居者の生活ペースや、不安や混乱を起こしやすい時間帯を把握して、業務優先ではなくなるべく入居者と向き合うように工夫している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や衣類などの買物援助を行い、自由な装いで生き生きとした暮らしができるように支援している。また、月1回の訪問理美容も実施している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間は、楽しい雰囲気づくりを心がけ、準備や片付けなどにも楽しみながら参加できるようにしている。	平日の昼・夕食は1階デイサービスの厨房で調理したものを提供している。週末・祝日と毎日の朝食は、スタッフがメニューを考えて作っている。入居者もできるところは一緒に行い、職員も一緒にテーブルを囲んでいる。時には外食も楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量については、チェック表を作成して把握して個々にあった支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔ケアの徹底、個人の口腔内の状態を把握しその方に合ったケアの支援。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>レベルの低下にならないように考慮しながら、個々にあった排泄支援を行っている。入前での声掛けをしないなど、プライバシーに配慮している。</p>	<p>日々の排泄チェック表をもとに一人ひとりの排泄パターンを把握し、こまめなトイレ誘導による排泄の自立支援が行なわれている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>個々の排便チェック表を作り、排便のペースや間隔・量などの把握に努めている。また、適度な運動や、水分摂取にも配慮している。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴については曜日や時間帯を設定してはいるが、入居者の希望やタイミングに合わせて楽しめるように柔軟に対応している。</p>	<p>入浴は入居者の気分や体調に合わせて対応している。希望者はデイサービスの営業時間外に大浴槽も利用できる。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの睡眠パターンの把握、生活のリズム作りに努めている。不眠の場合は原因を探り、場合によっては話し相手になるなどの援助を行う。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>入居者の服薬管理表により、薬の内容が把握できるようにしている。また、服薬チェック表にて誤薬防止に努めている。</p>		

グループホーム津田沼 自己評価(東ユニット)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の持ち味や個性・嗜好を把握して、日々の生活の中で何らかの役割を担えるよう又張り合いや喜びを得ることができ、楽しみや気分転換に繋がるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出の機会を多く持つようしており、また、近隣の行事にもできるだけ参加するようにしている。	周辺に散歩コースも多く、天気がよければよく散歩に出ている。ほかに毎週水曜日、3人くらいずつのグループで商店街に出かける買い物では、珈琲を飲んだりアイスクリームを買ったりして、小遣いを使う楽しみを支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族とも相談し、お金を所持することの安心や自信、買い物をすることの楽しみを味わえるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今までの関係を大切にして、手紙や電話のやり取りができるように、積極的に支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な温かみのある雰囲気であること、入居者にとって暮らしやすい環境であることを重視し、季節感が出るような草花を生けたり装飾をするなどして居心地のよい共用空間づくりを目指している。	木肌のぬくもりが感じられるリビング・ダイニングには、天窓から日差しが差し込んで明るく、室温も適切である。200坪ほどの芝生の庭には、テーブルやパラソルが置かれ、日光浴にも最適である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	屋内のみならず、芝生の庭にも椅子を設置し、自分の好きな場所で独りになったり、気の合う利用者同士で自由に過せるような環境づくりをしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、使い慣れた家具や生活用品の持ち込みなどを推奨している。	どの部屋も清掃が行き届き、使い慣れたベッドや椅子などが入居者の好みそのまま持ち込まれ、それぞれに居心地よい空間をつくっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状況を考え、安全かつ使いやすさ・分かりやすさに配慮した造作をしている。		